




就労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	MTIソーシャルワークス	事業所番号	2810100681
住所	神戸市東灘区向洋町中2丁目10番地 六甲アイランドビル4階	管理者名	谷川 哲平
電話番号	078-843-5878	対象年度	令和6年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

<p><活動内容></p> <p>タイトル：AI活用人材育成プログラムへの参加 活動場所：オンラインで学習の為時間・場所を選ばず受講可能 実施日程：2024年10月21日～2025年4月20日 講師：関西学院大学 工学部教授(副学長) 已波 弘佳 関西学院大学 共通教育センター教授 西野 均</p> <p>実施した利用者の知識・能力向上に係る実施の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西学院大学と日本IBMで共同開発されたAI活用人材を育成できるプログラム研修に参加。 入門科目：36講義(24時間) 基礎科目：44講座(24時間) <p>利用者数：A型利用者3名</p>	<p><活動の様子></p>   
<p><目的></p> <p>利用者の知識・能力向上に係る実施のねらい</p> <p>解説・ワーク・デモ・オンラインプログラミング・オンラインテストなどを通じて、生成AIをはじめとするAI活用に関する技術・事例・ツールなどを幅広く学び、基礎的な知識をビジネスシーンで効果的に活用できるようになることを目指す。</p> <p>利用者にとってのメリット</p> <p>AIの基礎知識と実践スキルが身に付き、業務への応用やキャリア形成に役立つ</p>	
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> JavaやAI技術に対する理解が深まり、業務への応用の具体的なイメージを持てるようになった。(H氏) AIが幅広い業務領域で活用可能であることに気づけたのが大きな成果でした。(F氏) AI活用に必要な知識や統計学の知識が得られた、また業務においてAIをどのように活用すればよいか見えてきた。(K氏) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の後半にかけて内容が難解になり、特にAI初心者にとっては専門用語や抽象的な概念が多く、実務への具体的な応用をイメージしにくい点が課題として残りました。(H氏,F氏,K氏) 事例が研究分野や統計分析に偏っていたため、実務での活用を具体化する取組みも引き続き必要だと感じた。(H氏,F氏,K氏) 	

連携先の企業や事業所等の意見または評価

<p><事業所として今後参考になる点></p> <ul style="list-style-type: none"> AIの活用が広がる可能性：今後は事業所内の業務効率化の工夫にAIがもっと役立つと期待できる。 データをもとに考える力がつく：日々の業務で根拠ある判断をする力につながることを期待できる。 学び続ける姿勢が育っている：自分で学び続ける力がついてきており、将来的な成長も期待できる。 課題解決のアイデアが増える：AIをうまく活用しながら、新しいアイデアで仕事の課題を解決しようとする姿勢が見られる事が期待できる。 <p><事業所として大いに評価できる点></p> <ul style="list-style-type: none"> AIへの関心と活用意欲が高いこと：新しい技術を積極的に取り入れようとする点は評価できる。 基礎的な知識が身についたこと：データの考え方を学んだことで、業務に数字や根拠をもって考える力が付いた点は評価できる。 自分で調べて学ぶ姿勢があること：AI(ChatGPT)を身近に感じることで、学び続ける力が育ってきている点は高く評価できる。 AIを使って仕事の工夫ができそうなこと：AIのいろいろな機能を組み合わせて、新しいアイデアや問題解決につなげようとする姿勢は評価できる。 	<p>連携先企業(担当者)</p> <p>関西学院大学 総合企画部 岡崎様</p>
--	---

利用者からの意見・評価

<p><受講者の意見・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで限られた場所で分野で業務を行い、その業務の中でChatGPTを使うようになったが、今回知らない分野でAIを活用している事例を知り、改めてAIって凄いと感じた。 AIやChatGPTをすでに活用していたので、今回の研修内容は自分の実務とつながる部分も多く、「学んだことをどう使えるか」という視点で受講できたことは良かった。 AI初心者として紹介される事例の多くが研究分野や統計分析の応用に寄っていたため、現場の実務でどのように使えるのか、現場での具現化について検討および検証が必要であると感じた。
